

大きな？鯉



あひるの話をしているとき
 K男「あひるは池で飼うといいよね」
 E男「うん、いいと思う」
 Y男「僕のうちに池あるよ」
 K男「じゃ、Y男君の池であひる飼う？」
 Y男「えーだめだよ。だってものすごく大きい鯉いるも。1センチもあるんだよ」
 保 「??」
 E男「すごい。おっきいだね」
 K男「じゃ無理だね」

荒高掲示板

～県立荒砥高等学校～

「長井工業高校との合同リーダー研修会」

来年度から始まる長井工業高校とのキャンパス制の制度を先取りして、12月21日（金）に両校の新生徒会執行部の生徒が東北芸術工科大学デザイン工学部を訪問し、フラワー長井線活性化に向けての合同研修会を行いました。

来年度の荒砥高校は、総合学科の開設に加え長井工業高校とのキャンパス制という特性を生かし、より魅力的な学校へと生まれ変わるべく現在詰め段階に入っておりますが、何分初めてのことなので、走り出しながらもより良い方向に軌道修正していかなければならないと考えています。この事業も、「両校にとつてプラスになるものは25年度を待たずに実施していきましよう」という申し合わせのもとに行つたものです。実は8月にも長井工業高校から「小型特殊車両の資格を希望する生徒がいれば一緒にどうぞ」という申し入れがあつたのですが、諸事情で参加できませんでしたので、今回の合同研修会がキャンパス制に関する事業第1号ということになりました。

来年度も長井工業高校と協力して、フラワー長井線の活性化などについても取り組んでいきたいと思つています。荒砥高校と長井工業高校の両校が今後益々活性化していくように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



町報川柳 「記憶」

高橋 白兔 選

佳作

記憶力うすれてしまふ年のせい
 記憶ひもとき笑い楽しむクラス会
 なつかしいアルバムめぐりあの頃は
 品物を自分で置いてさがして
 ふるりの記憶の中の父母の顔
 八十路坂記憶減退湧く安堵
 絡み合いなかなか解けぬこの記憶
 記憶には級友の顔セピア色
 記憶には年寄りの知恵光つてる
 自慢です誰にも負けぬ記憶力
 年のせい昔の記憶よみがえる
 昨日より昔の記憶鮮明に

ふじみ野 村上 桂造
 箕和田 土屋 三歩
 山口 児玉 保子
 町田市 保高 悦子
 大瀬 五十公野春巳
 山口 石川與次衛門
 世田谷 糸 マサ
 荒砥乙 横山 陽子
 高玉 高橋 朝子
 西高玉 金田 コト
 畔藤 菅原 敦子
 荒砥乙 大滝 栄子
 浅立 高橋 とみ
 世田谷 遠藤 八重
 十王 鈴木 しげ
 佐野原 五十嵐あきよ
 佐野原 鈴木 トミ
 箕和田 川部 隆雄
 十王 保科 努
 貝生 井澤美佐子
 荒砥甲 山口 渡部喜美子
 山口 横沢 直太
 鮎貝 鈴木美貴子
 荒砥甲 高玉 片山 時美
 荒砥乙 浅立 梅津美千子
 浅立 鮎貝 植木 英夫
 十王 白兔 守谷 三郎

秀逸

若き日の記憶掘り出し花が咲く
 色あせぬ記憶に浮かぶあの笑顔
 幼い日の記憶日毎によみがえる
 茶呑み友苦勞話に花が咲き
 ストレスが記憶力さえ薄れさせ
 遠い友対話で記憶甦る
 記憶とは遠い過去達よみ返る
 薄れゆく昭和の記憶奥の底
 シナリオのような記憶が浮き沈み
 記憶力減つて性格丸くなり
 古里は記憶の中でいる褪せず
 脳老いて記憶薄れた至福の身
 脳回路出てくる記憶走馬燈

荒砥甲 井澤美佐子
 山口 渡部喜美子
 山口 横沢 直太
 荒砥甲 鈴木美貴子
 高玉 片山 時美
 荒砥乙 浅立 梅津美千子
 浅立 鮎貝 植木 英夫
 十王 白兔 守谷 三郎

五客

記憶にはごさいませんとつた人
 ひねつても出て来ぬ記憶老い深む
 あつたかい母との記憶宝物
 飛び交うは遠い記憶の赤とんぼ
 半分は脚色されている記憶
 優しいさの記憶は母の泣き黒子

荒砥甲 鈴木美貴子
 高玉 片山 時美
 荒砥乙 浅立 梅津美千子
 浅立 鮎貝 植木 英夫
 十王 白兔 守谷 三郎

地位

記憶にはごさいませんとつた人
 ひねつても出て来ぬ記憶老い深む
 あつたかい母との記憶宝物
 飛び交うは遠い記憶の赤とんぼ
 半分は脚色されている記憶
 優しいさの記憶は母の泣き黒子

荒砥甲 鈴木美貴子
 高玉 片山 時美
 荒砥乙 浅立 梅津美千子
 浅立 鮎貝 植木 英夫
 十王 白兔 守谷 三郎

軸

記憶にはごさいませんとつた人
 ひねつても出て来ぬ記憶老い深む
 あつたかい母との記憶宝物
 飛び交うは遠い記憶の赤とんぼ
 半分は脚色されている記憶
 優しいさの記憶は母の泣き黒子

荒砥甲 鈴木美貴子
 高玉 片山 時美
 荒砥乙 浅立 梅津美千子
 浅立 鮎貝 植木 英夫
 十王 白兔 守谷 三郎

次回

「夢」二月二十五日まで。「春」三月二十五日まで。
 はがきに三句まで。一句でも二句でも可。
 白鷹町荒砥乙四二八―二 高橋 白兔 宛